

## 『古都』大津 Q&A

### Q1. 大津京とは？

近江大津宮は、667年(天智6年)天智天皇によって遷都された日本国成立期の枢要な都です。我が国最古の戸籍である庚午年籍を整備するなど、律令体制の基礎づくりが行なわれました。

関連する歴史文化資産としては、近江大津宮錦織遺跡、崇福寺跡、穴太廃寺跡、南滋賀町廃寺跡、園城寺(三井寺)などが残されています。

大津宮は、『日本書紀』『懷風藻』『藤氏家伝』などの史料から、内裏(おおうち)・浜台(はまのうてな)・大蔵(おおくら)・宮門(みや)・朝廷・大殿(おおとの)・漏刻(ろうこく)・内裏仏殿(おおうちのほとけのみあらか)などの施設があったことがわかっていますが、その所在地は長い間不明でした。所在地をめぐって、大津市市街・錦織・南滋賀・滋賀里・穴太などの説があり、論争が続いていましたが、1974年(昭和49年)錦織地区の一画で大津宮の中心施設と思われる遺構が発見されました。

以後、周辺地域における数次の発掘調査を経て、内裏正殿(だいりせいでん)・南門・回廊・塀などの遺構が確認され、大津宮の姿が次第に明らかとなってきました。そして、1979年(昭和54年)に「近江大津宮錦織遺跡」として国の史跡指定を受けることとなりました。

